

## 重点事業の体系

### 施策Ⅲ－３ 時代の変化に即応したプログラムのあり方に関する取組み

重点事業Ⅲ－３－① スカウティング研究所の設立に関する取組み

重点事業Ⅲ－３－② これからの主催大会のあり方検討とその考え方に基づく展開

## 重点事業Ⅲ－３－① スカウティング研究所の設立に関する取組み

### 1 日本連盟の現状とこれまでの主な取組み

○これまで、広く外部の専門家の協力を得て、その知見を活かす仕組みがなかったことから、プログラム、成人の活用、組織運営等について最新の知見が反映された施策を推進しているとは言い難い状況でした。

○ガールスカウト日本連盟、国立青少年教育振興機構、野外教育学会等とは、緩やかな繋がりはあったものの、プログラム開発やその評価での連携には至っていませんでした。

### 2 2032年度の姿（この10年で取組むこと）

○プログラムや指導者の学習の場の開発・評価を専門的知見から行うためにスカウティング研究所が設置されている。

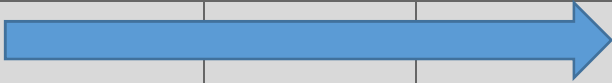
○スカウティング教育研究所による、例えば青少年野外教育白書のような書籍が発行され、社会に対して情報発信を行っている。

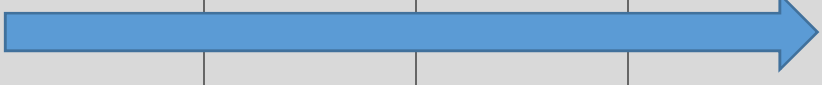
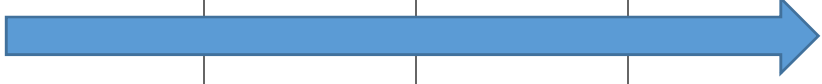
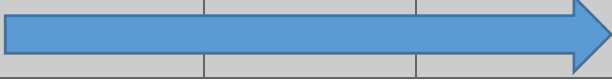
### 3 主な成果指標

	現状（2022年）	5年後（2027年）	10年後（2032年）
スカウティング研究所の設立	実施していない	研究所が設立される	－
スカウティング研究所による、プログラムや指導者の学習の開発・評価	実施していない	研究所が設立される →開発・評価に着手	定期的の開発・評価が行われている
青少年野外活動白書（の発行）	実施していない	研究所が設立される →発行に向けた調査研究に着手	2032年版発行

## 4

## 計画期間の主な取組み

主な取組み	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027) 計画見直し年
スカウティング研究所の設立	検討組織の設置				研究所が設立
		(		研究所員の募集	
スカウティング研究所による、プログラムや指導者の学習の開発・評価	-	-	-	-	研究所が設立される→開発・評価に着手
教育調査書（スカウト教育白書）の発行	-	-	-	-	研究所が設立される

主な取組み	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032) 計画最終年
スカウティング研究所の設立	他団体との連携強化				
スカウティング研究所による、プログラムや指導者の学習の開発・評価	定期的な開発・評価				
教育調査書（スカウト教育白書）の発行	調査研究・編集作業				2032年版発行

## 重点事業Ⅲ－3－② これからの主催大会のあり方検討とその考え方に基づく展開

### 1 日本連盟の現状とこれまでの主な取組み

○日本スカウトジャンボリー（以下、ジャンボリーという）については、規模に見合った会場を確保することが年を追うごとに難しくなっています。2022年に開催した第18回日本スカウトジャンボリーは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、分散開催となりました。

○これまでの実績は次のとおりです。

回数	開催年月	開催場所	参加人数	外国参加人数
1	1956(昭和31)年8.2～6	長野県 軽井沢	13,000	—
2	1959(昭和34)年8.6～10	滋賀県 あいばの	17,000	—
3	1962(昭和37)年8.3～8	静岡県 御殿場（アジアジャンボリー）	26,000	—
4	1966(昭和41)年8.5～9	岡山県 日本原	30,000	459
5	1970(昭和45)年8.6～10	静岡県 朝霧高原	32,600	452
6	1974(昭和49)年8.1～6	北海道 千歳原	26,700	429
7	1978(昭和53)年8.4～8	静岡県 御殿場	26,270	613
8	1982(昭和57)年8.2～6	宮城県 南蔵王	30,144	398
9	1986(昭和61)年8.2～6	宮城県 南蔵王	30,173	438
10	1990(平成2)年8.3～7	新潟県 妙高高原	31,972	482
11	1994(平成6)年8.3～7	大分県 久住高原	30,914	482
12	1998(平成10)年8.3～7	秋田県 森吉山麓高原	26,740	483
13	2002(平成14)年8.3～7	大阪府 舞洲スポーツアイランド （第23回アジア太平洋地域ジャンボリー）	20,588	923
14	2006(平成18)年8.3～7	石川県 珠洲市「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」	20,652	1,002
15	2010(平成22)年8.2～8	静岡県 朝霧高原	19,382	795
16	2013(平成25)年7.31～8.8	山口県 きらら浜 （第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー）	14,340	1,391
17	2018(平成30)年8.4～10	石川県 珠洲市「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」	13,414	562
18	2022(令和4)年8.	全国各地（分散開催）255か所	14,474	—

○日本アグーナリーについては（以下、アグーナリーという）、2020年に第13回を福島県において実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け同じ会場で2024年に実施することになりました。

○文部科学省は2012年に出した「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」の中で、次のように述べています。「『インクルーシブ教育システム』（包容する教育制度）とは、～中略～障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「教育制度一般」から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている」。つまり、「障がいのあるなしにかかわらず、合理的な配慮のもとで共に教育を受ける」ということです。このような社会状況にあって、日本連盟の主催大会のあり方については、あまり議論がなされてきませんでした。

○これまでの実績は次のとおりです。

回数	開催年月	開催場所	参加人数	外国参加人数
1	1973(昭和48)年8.17～20	愛知県 県立愛知青少年公園	200	—
2	1976(昭和51)年7.30～8.3	愛知県 県立愛知青少年公園	336	—
3	1979(昭和54)年8.3～7	大阪府 大阪市長居公園	660	32
4	1983(昭和58)年8.5～9	兵庫県 県立嬉野台生涯教育センター	972	49
5	1987(昭和62)年7.31～8.4	静岡県 御殿場市国立中央青年の家	989	95
6	1991(平成3)年7.25～29	東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター	851	76

7	1995(平成7)年 7.26~30	新潟県 国立妙高少年自然の家	880	99
8	1999(平成11)年 8.5~9	愛媛県 松山市野外活動センター	1,143	130
9	2003(平成15)年 7.31~8.4	石川県 珠洲市「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」	1,252	0
10	2008(平成20)年 7.31~8.4	兵庫県 神戸市「しあわせの村」	1,078	89
11	2012(平成24)年 8.2~6	滋賀県 希望が丘文化公園	717	30
12	2016(平成28)年 8.12~16	静岡県 富士山麓山の村	943	394
13	2024(令和6)年 8.12~16	福島県 国立磐梯青少年交流の家		

○富士特別野営の起源は、1951年の第1回名誉スカウト特別訓練に遡ります。その後、1953年には名誉スカウト特別訓練野営となり、1955年からは1級スカウト富士特別訓練、1958年からは年長隊富士特別野営、2007年には富士チャレンジキャンプとなりその回数を重ねてきました。2014年から始まった富士特別野営は現在までに7回開催されています。

○2020年度の臨時理事会（第2回）において、2023年度以降の全国大会については、全国的なバランスを取るために開催地をブロックの持ち回り（関東→中部→近畿→中国・四国→北海道・東北→九州・沖縄の順）とすることが確認されました。

## 2 2032年度の姿（この10年で取組むこと）

○日本連盟の全ての主催大会の意義やその手法が充分議論され、それを踏まえた大会が開催されている。（主：主催大会担当）

## 3 主な成果指標

	現状（2022年）	5年後（2027年）	10年後（2032年）
意義や手法が充分議論された主催大会の開催	実施していない	あり方報告を踏まえた19NSJの開催（2026年）	-

## 4 計画期間の主な取組み

主な取組み	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027) 計画見直し年
意義や手法が充分議論された主催大会の開催	主催大会の意義や手法の検討 全国大会（岡山）	「主催大会のあり方を報告」公表 全国大会（秋田） 第13回日本アグーナリー開催	あり方報告を踏まえた19NSJの準備 全国大会（福岡）	全国大会（関東B） 第19回日本スカウトジャンボリー開催	全国大会（中部B）

主な取組み	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	R14(2032) 計画最終年
意義や手法が充分議論された主催大会の開催	全国大会（近畿B） 第14回日本アグーナリー開催	全国大会（中国四国B）	全国大会（北海道東北B） 第20回日本スカウトジャンボリー開催	全国大会（九州沖縄B）	全国大会（関東B） 第15回日本アグーナリー開催

\*大会の開催は、機関決定されたものではなく、前例に倣うことを前提に想定したものです。